

シオヤトンボ

今年初めてのトンボとの出会いでした。澄川基地の中物置の近くに転がっている玉切り材に止まって近くを飛ぶ虫たちを狩るべく待ち伏せしている状態でした。近づくと一旦は飛び立って逃げはしますが、またすぐに戻ってきて同じ場所で待ち伏せ態勢に入りますので、映像をゲットするのは簡単でした。帰宅後調べましてシオヤトンボ♀と判明しました。撮影期日は2016年6月21日12時47分でした。

シオヤトンボはシオカラトンボと近縁で♂♀の装いがよく似ていますが、並べて比較しますと違いがはっきりしますが、一見しただけでは紛れてしまいます。右の写真で下が♂です。

分布は北海道、本州、四国、九州、種子島で日本固有種とのこと。出現期間がやや短くて4月から7月までのようです。体長は39~47mmでシオカラトンボより少し小さいのです。

シオカラトンボは昆虫少年時代から馴染んでいましたが、その時点ではシオヤトンボのことは知りませんでした。日本全国が貧乏な時代で、図鑑も持っていなかったし止む無しでありました。



左下の写真の番いがシオカラトンボです。雌雄ともに腹の先っぽが黒いことで、シオヤとの区別ははっきりできます。腹の幅がシオヤよりも気持ち細くスマートです。♂の装いが全体に塩を吹いたように見えることで塩辛そうなイメージからの命名だと思っています。分布はロシア、中国、朝鮮、台湾までと極めて広いようです。

もはや夏至となりました。これから日々昼が短くなっていくのかと思うと気が重くなりますが、澄川の森では今エゾハルゼミの大合唱で、虫たちの活動はこれからです。憎き藪蚊も大発生しています。

防虫スプレーや蚊取り線香は個人負担ではありませんのでふんだんに使いますが、この森の蚊は手袋の布の上からでも吸血されますので、油断ならないのです。止まるやいなや刺すので、まったく厭な虫なのです。他にもマダニやスズメバチたちなどもおりますので、警戒を怠ることはできません。